

## 小矢部市まちづくり研究会（第3期生） 第2回会議次第

日時：平成22年8月11日（水）

午後7時～

場所：小矢部市役所（4F）講堂

### <開会>

- 1 座長あいさつ
- 2 意見発表（小矢部市の現状と課題等について）
- 3 協議事項
  - ・ 研究テーマについて
- 4 その他
- 5 次回開催日
  - ・ 平成22年 月 日

### <閉会>

### 小矢部市まちづくり研究会（第3期生） 第2回会議配布資料一覧

- 1 会議次第
- 2 配布資料
  - ・ 資料1・・・小矢部市の現状と課題等について
  - ・ 資料2・・・まちづくり研究会（第3期生）委員連絡簿

氏名	私から見た小矢部市の現状と課題等について			
	①小矢部市の現状	②小矢部市の課題	③私が考えるまちづくりについて（提案）	④先進地視察の選定について
野手 貴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちの雰囲気的に行き詰まり感がある。南砺市、高岡市、砺波市等、他の市町村に勢い的におされている感じがする。</li> <li>・以前、石動駅前商店街は相当賑わっていた（らしい）が、昔程の勢いがない（らしい）。</li> <li>・地元で経済が流通しない。（お買い物、レストランでの外食、遊ぶ）</li> <li>・買い物はイオン・ジャスコ、外食は金沢・砺波、遊ぶのは小矢部市外</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本当にメルヘンでいいのか？！またまちを訪れる人たちもメルヘンをみたいのか。</li> <li>・住む人にとっても、訪れる人にとっても、働く人にとってもメリットを実感出来にくい雰囲気があるのではないか。</li> <li>・若い人たちが評論家ばかりで、実際にアクティブに動かれる方が少ない。遠慮がちな市民性もあるのではないか。市民活動を公的にサポートできる制度はできないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※まちづくりとなる「柱」をつくりたい。</li> <li>・ミニSL⇒リアルなトーマスランド化してみる。</li> <li>・農業や特産物など、何かに特化してみてもどうか。また体験型の場所も欲しい。</li> <li>・オープンカーのレンタカー会社を設置し、小矢部を拠点に、越中、飛騨、能登の観光をしていただく。メルヘンめぐりも楽しいのでは？！</li> <li>・何かの大会を誘致する。例えば長野県飯田市の人形劇フェスティバルのようなもの。もしくはウルトラマラソンや ゆるキャラの大会等も出来ないか。</li> <li>・合宿の誘致をする（旧岩尾滝小学校等は立地・環境的に都会の方からすると最高だ！）</li> <li>・市民ボランティア・サポーター制度設立。企業としての地域貢献ポイント制度を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山形県寒河江市（さくらんぼによるまちおこし、体験農場）</li> <li>・滋賀県長浜市（黒壁のまちづくり、ガラス館によるまちおこし）</li> <li>・大阪府豊中市（住民主体のまちづくり協議会を設置し、商店街の活性化等をしている）</li> </ul>
荒谷 まさこ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古くから受け継がれているお祭り等があってよい。</li> <li>・駅周辺は少しさびしい。</li> <li>・中心部の道路、歩道が狭い。</li> <li>・徒歩や自転車で駅に行きにくい。</li> <li>・道の駅ができてよかった。</li> <li>・メルギューくんが活躍している。</li> <li>・人口が減るのが淋しい。</li> <li>・街に緑が少ない。</li> <li>・よい公園が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業誘致</li> <li>・市民が元気になる何か。</li> <li>・人口減少に歯止めをかける。</li> <li>・車椅子、ベビーカー、子供の自転車、高齢者が安心して利用できる道路の整備。</li> <li>・弱者に優しい街。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎エッグホッパーを市民の定番メニューにする。</li> <li>・レシピをつくる。・エッグホッパー用の粉をつくる。・給食に出す。</li> <li>◎小矢部を”おやべ”と読んでもらえないという話で、『おやべえ』というカールおじさんみたいなキャラクターをメルギューくんと一緒に活躍させる。</li> <li>◎ファーマーをアピールする。</li> <li>◎石動高校生とコラボしてイベントを開催。若い力を借りる。</li> <li>◎第一に市民が小矢部を良いところと思うことからするべきではないかと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「長野県北佐久郡御代田町」人口1万5千人弱だが、人口増加が続いている。子供の出生率長野県下トップクラス。</li> </ul>
渡邊 克明	<p>地域の宝を活かしきれていない。</p>	<p>どこのまちでも言えることだが、まちの個性を活かしたまちづくり運動で地域を活性化させるとともに、観光客や来街者など外部からの交流人口を増加させること。</p>	<p>【小矢部の特産物を使用したスイーツによるまちづくり】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 小矢部の特産物を使用したスイーツの開発</li> <li>② 辻口博啓などの著名なパティシエにプロデュースしてもらおうのがベスト</li> <li>③ 市内の一店舗がそれを販売するのではなく、まずずしが富山の特産物になったように、共通レシピの元それぞれの店舗がこだわりをもち製造し販売する</li> <li>④ それにより商店街の活性化、地域の活性化や来街者の増加が見込める。</li> </ol>	<p>近郊で似たようなまちづくりを行っている先進地をいくつも視察し、交流する。</p>
岩田 千波	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活してくぶんには申し分ないが、魅力的な施設やイベントが少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メルヘン、バラ、源平、縄文などを題材にしたまちづくりのテーマはあるが、どれも平均的でインパクトに欠ける為かえて小矢部市の個性をわかりにくくしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくりのテーマを絞りそれらに関連したイベントや商品などの企画やPR活動の展開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会の研究テーマに添った所</li> </ul>
木下 浩明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口が減ってきている</li> <li>・市外(県外)からの観光客は通過点になっている</li> <li>・メルヘン建築物の老朽化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の人口をどうやって増やすか？</li> <li>・観光客をどうやって呼び込むか？</li> <li>・今後もメルヘンを謳っていくのか？</li> <li>・メルヘン建築の扱いは？</li> <li>・市内の農産物の自給率の向上</li> <li>・市民(特に児童・生徒)にどの様な農産物が市内で生産されてるか知ってもらいたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大河ドラマを実現できたら、何か目玉がいるのでは？</li> <li>・砺波のチューリップフェアとのタイアップ(コラボ)を考えてみれば</li> <li>・食のイベントをすれば良いのでは(地産地消、知らない市内の農産物の紹介 など)</li> <li>・初心者用のアウトドア施設の整備(キャンプ場、バーベキュー場)</li> <li>・地元発信のアイドルユニットがいれば良いのでは</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フード フェスタが行われている所</li> </ul>

私から見た小矢部市の現状と課題等について				
氏名	①小矢部市の現状	②小矢部市の課題	③私が考えるまちづくりについて（提案）	④先進地視察の選定について
にしむら 西村 哲也	土、日、祝日、の市内の空洞化 .etc	・市外に対してのPR（特産品等.etc） ・市内の若年、年輩の雇用	土、日、祝日に集客できる商業施設（無料のまんが喫茶 .etc）	上海
むらにし 村西 みどり	・買い物、食事など市外に出掛けてしまう事が多い。必然的に商店街が閉鎖になっている。 ・メルヘンの街としてアピールしているが公共施設の建造物だけでそれ以外に「メルヘン」のイメージはない。現に「道の駅メルヘンおやべ」も建物、内装にメルヘンのイメージはない。他に、「縄文」「源平・木曾義仲」があるが、どれもインパクトに欠ける。 ・北陸中央病院の利用が減って他市の総合病院に通院している人が多い。診療機材は充実しているが、常勤医師不在の診療科など改善してほしい。 ・「木を見て森を見ず」で、家、町内など縁故に固執して、市としての全体の活性を考えない傾向がある。保守的。	・少子高齢化と人口減少の対策。 ・小矢部市の魅力（史跡、イベント、特産品etc）の情報発信、PR、そして市外から人を誘致する。 ・地域医療ネットワークの充実 ・北陸高速自動車道に加え、能越自動車道、東海北陸自動車道が開通し三大都市圏の拠点として企業誘致し、小矢部市の就業人口の増加、Uターン、Iターン者の雇用促進を図る。 ☆市民一人々が市政に関心を持ち、参加することが大事。	・小矢部市は自然環境、交通における立地環境、農・畜産などの食の地場産業に優れている、とても暮らしやすい所です。安心して子供を産み育てる事が出来て、健康的な生活をおくれ高齢期を安心して暮らせる街づくりの為に、地域医療の充実と共に予防医学の周知が必要だと思います。北陸中央病院の充実した施設を利用して、予防医学、健康増進の拠点づくりをしたらどうだろうか。 ・女性の労働力が不可欠な今、働く母親が安心して子供を預けられる、多様なニーズに対応出来る保育施設づくりと、在宅保育者養成の助成。 ・小矢部の地場産を利用したり、小矢部をアピールする商業活動を考える起業者に助成金や空店舗の提供などして商業活動や消費活動を活性化させる。	特になし
たけべ 武部 佳子	小矢部市は、他市に誇れる文化や伝統、特産物が多くある一方で、やや閉鎖的で、他を受け入れにくい市民性があるように感じます。他方、一度受け入れるとその関係を大切にすると市民性があると思います。積極的な活動をする方、グループも多数ありますが、それぞれが独立しているため、横の繋がり、人と人との繋がり、ネットワーク化が十分ではなく、街全体への影響力に欠けていたり、継続できなかったり、市民に認められにくい部分もあるのではと思われます。 また、異なる世代が融合し活動を共にするにも難しい点があるように思います。「個人」という形が大変強くなってきました。それにより地域社会との繋がりが薄いと感じます。地域社会での活動を通じて生まれる 互いをいたわり思いやる といった日本人特有の人間性が薄れているように感じます。 さらに、高齢者や弱者にとっても住みやすい街にはまだまだ十分ではないとも思います。 老いていく不安、生きていく不安を抱える人が大変多いのではないのでしょうか。 それから、市街地の空洞化が顕著です。町が暗く歩きにくいように感じます。 あれも、これも…新しいものをやってみるのだけど、継続性が無いように感じます。「何か」にスポットをあて、認められるまで継続していく力があれば、小矢部市の魅力が増すと思います。	小矢部市に限らずですが、高齢化問題、そして医療費問題が一番に取り上げられるかと考えます。少子化に拍車がかかり、小矢部市の財政が抱えきれない大きな負担となることは明白です。今この問題を深刻に捉えて取り組んでいくべきかと思えます。 次に、市街地の空洞化が深刻かと思えます。高齢化と共通した課題であると思えます。 若い世代（特に若い女性に認められれば、必ず若い男性も興味を持ちます。その次にちょっと高齢の女性や男性にも浸透します。そして町全体に）が小矢部市をもっと知ること。我が町を受け入れること。さらに小矢部市に参加することが課題だと考えます。	高齢化対策について…高齢者や子どもや弱者をいたわる町になることは、地域社会が確立されており、情報の格差が無く、ネットワークが完成されていることが大切かと思えます。弱者をいたわる町は誰にも住みよい町であり、誇れる町だと思います。それが孤独死や高齢者の独り暮らしといった不安の解決にもなるかと思えます。子ども達のいじめ問題の解消にも成り得ると思えます。 今こそ地域の繋がり、人の繋がりを重視するべきかと思えます。まずは、現状をよく知ることからかと思えます。一人暮らしの高齢者の割合や、どれだけのケアを受けているか、不自由がないか、孤立していないか、周辺のコミュニティはあるのかを知ることは大切かと思えます。そして次に、世代を超えた交流できる空間、施設、イベント、環境等が大切かと思えます。 市街地の空洞化に関して…町が元気になるには人が集まる場所が必要です。人が集まるには、明るく、夢があり、噂になっていて、満足が得られて、自分の存在が認められるところであり、感動があるという要素が考えられます。そしてとにかく定着して認められるまで継続していくことが必要かと思えます。人が集まる場所と元気な人を作ることが、高齢化が加速し空洞化が進む市街地の問題を解決する糸口になると考えます。それがまちづくりに繋がると考えます。 若い世代は小矢部市では物足りなさを感じていますので、他にはない自慢できる小矢部市が若い人に認められれば、世代を超えて市民に受け入れられるのではないかと思えます。 特にターゲットとしたいのは若い女性です。若い女性が集まる場所は、若い男性が集まります。若い男性が集まれば、年輩の女性が集まります。さらには、若い女性には「クチコミ」の力があります。嬉しいことやびっくりしたことがあると、1時間以内に20人くらいに広める力がありますが、男性は、あまり人に伝えようという思いはありません。 今の世の中、消費活動は若い女性が動かしているとも言えると思います。ですから、女性が好きなこと（かわいい・おいしい・キレイ・癒される）に着目してはどうかと考えます。小矢部市の環境、特徴、地形、農産物、特産品、市民性を考慮し、小さな町だからこそ出来ること。女性に受け入れられることが大切かと思えます。 上記の2点について共通の提案を考えたい場合、私は「バラ」を武器に出来ないかと思えます。「バラ一本運動」「バラ園inクロスランド」「バラ庭作りin学校（もしくは公民館等の公共施設）」「LEDでバラアーチ」バラが県内シェアの60%であることが市民にようやく認知されてきています。花が持つ魅力は人の心を癒し、安らぎや希望を与えます。そしてなおかつ、ロマンチックであり、メルヘンの街にふさわしい最高の材料かと思えます。 花のある場所には人が集まる不思議な力があります。 ・「バラ一本運動」…市内の店先に必ず一本のバラを置く運動です。（バラの季節でなければ造花でもいいのです）一本のバラですが、町の統一性を図ることで、町の人の思いや考えがまとまり、町全体が変わるのではないかと考えました。 ・「バラ園inクロスランド」…クロスランドをもっと大きくアピールすべきだと思います。タワーやハート島、加えてミニSL。どこにもないこの魅力を最大限に生かすためにも、「バラ」をプラスしてはどうかと思えます。バラのアーチをハート島に作り、鐘やベンチ、バラに包まれた島にすれば大変ロマンチックで、ますます恋人の聖地としてふさわしい場所へとなるのではないのでしょうか。 ・「バラ庭作りin学校」…小矢部市のメルヘン建築は学校や公共施設がほとんどです。しかしながら、点在しておりなかなか全てを見るのは大変です。そこに着目しました。それぞれの場所で庭作りコンテストのような形を実現できないかと思えました。課題は「バラ」です。学校や保育所・公民館という施設がほとんどのメルヘン建築なので、地域のコミュニティが生かれます。幼児や小・中学生が地域の高齢者とともに庭作りでふれあう時間を持つ。コンテストで競いあうのですから、素敵な庭にするために、地域でアイデアを出し合う。そしてコンテストで優勝した施設を表彰し、大きく市内外へPRする… 各メルヘン建築がバラで彩られれば、景観もよく、対外的にも大きなアピールポイントとなるはずです。一つのことをテーマとして協力しあえば、地域のコミュニティも確立していくのではないかとと思えます。幼児と高齢者がふれあう時間は、幼児の教育にもよく、高齢者にとっても生きがいとなると思えます。 ・「LEDでバラアーチ」…寂しい町中に、省エネで環境にも配慮したLED照明を使用したバラのアーチを設置してはどうかと考えます。この一つで、街の中に人が集まるとは言えないかもしれませんが、バラ一本運動と同じで、人の意識が代わり、心が動かせるとは思いません。	川越市…「町は人の力で変わる、変えられる」と教えられました。

氏名	私から見た小矢部市の現状と課題等について			
	①小矢部市の現状	②小矢部市の課題	③私が考えるまちづくりについて（提案）	④先進地視察の選定について
高田 康一 <small>たかた こういち</small>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口の推移等をもて、小矢部市のアピールポイントや魅力というものが、市外の方・市民にも、十分に伝わっていないように思う。（定住に関して言うと、「なぜ小矢部市に住まないの？」という言葉よりも「〇〇〇〇など良いところですよ。暮らしてみてもは？」という言葉のほうが効果的ではないか。）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小矢部市のアピールポイントや魅力が伝わっていないこと</li> <li>具体的なまちづくりの方向性が伝わっていないこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民が誇れる「まち」であれば、自然に他所から人は集まる。市民が、市民や市外の方に自信を持ってアピールできるものを再発見する。</li> <li>まちづくりは模倣からはじまるが、はじめたら徹底的にやる。何事も中途半端では自信を持ってアピールできず、「まち」の活性化も期待できない。</li> </ul>	
能登 啓之 <small>の と びろし</small>	<p>高速・幹線道路はそれなりに充実しており、マイカーを所有しているものにとっては便利であるし、JR北陸本線の駅もあることから金沢、富山の交通アクセスは非常に満足できるものだといえる。</p> <p>しかし、高齢者やマイカーを持たない人には不便である。ましてや、中心市街地までの移動手段も限られており、日常生活にも大きな影響を与えていると思われる。</p> <p>人口が3万2千人余りであり決して多くないこと、祭り、地区行事など伝統は継承されているので、住民同士の連帯感、絆は強いと思うので、あらゆる不均衡を住民相互で是正していけたら、小矢部市に誇りを持つことができると考える。</p>	<p>交流人口の増を見込むことで、イベントの数を増やすあまり、1つの核になるものがないように感じるのか、もともとないのか、小矢部市を他県、他市へPR、売り込み、紹介するとなると弱くなる。</p>	<p>畦畔など、昔ながらの田舎の原風景を残し、都会からのUターン、帰省者数および滞在日数の増加を目指す。さらに、小矢部の風景映像をインターネット等で発信、制作会社などへも送り、TV、映画のロケ地、小説、アニメ、漫画の舞台となるように働きかける。</p>	
中川 利昭 <small>なかがわ としあき</small>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口の減少が続いている。（転出者の60%が20～34歳の年齢層）</li> <li>交通の便がよい。</li> <li>医療費が小学校6年生まで全額助成されるなど、子育てがしやすい環境にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>転出した新婚夫婦にヒアリングをしたことがあるが、「勤務地から遠い」「買物に不便」といった理由から小矢部市から転出したとのことだった。このことから、「雇用環境」と「生活環境」の充実が必要だと思う。</li> <li>小矢部市は金沢と高岡の商圏が重なっているため、新たな商業施設の立地が進まない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「雇用環境」「生活環境」を充実させ、学ぶところや遊ぶところがあるといった「地域の魅力」を向上させていく「総合的なまちづくり」が必要だと考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口が同規模で、ジャンクションがあるなどの地理的な特性が似ている自治体の成功事例を視察したい。</li> </ul>
松田 充弘 <small>まつだ みつひろ</small>	<ul style="list-style-type: none"> <li>若者の流出がある。</li> <li>少子化が進んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>若い内に結婚し、多くの子供を産んでもらう努力をする必要がある。</li> <li>子育てにお金がかからないようにする努力をする必要がある。</li> <li>一度流出した若者に戻って来てもらう努力をする必要がある。</li> <li>若者を流出しないようにする努力をする必要がある。</li> <li>政策をより多くの人に知ってもらうためのPR方法を考える必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力重視でない教育（仕事ができる人間を育てる教育）を実施。</li> <li>高校生を対象とした「仕事塾」の設立。</li> <li>高卒就職者のレベルを高める。</li> <li>高卒での就職者を増やす。（進学率の低下）</li> <li>大学進学者に対する奨学金制度（Uターン就職して小矢部に定住した場合は奨学金返済の一部もしくは全額を免除）を実施。</li> <li>Uターン就職した学生に対して補助金制度（一定期間以上の市内定住が条件）を実施。</li> <li>市内外の企業と連携して就職の促進・斡旋を行う。</li> </ul>	<p>似た政策を行っている市町村、もしくは学校や企業。</p>
青山 千恵美 <small>あおやま ちえみ</small>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの医療費が小学6年生まで無料であったり、出産等交通費助成制度などの金銭的な助成や、病後児保育、こんにちは赤ちゃん訪問など、金銭的以外の子育て支援などが充実。</li> <li>定住支援のため、アパートへの転入者や、家の新築への助成。</li> <li>クロスランドや、稲葉山、宮島峡、道の駅など、魅力がある。</li> <li>国道や高速道路があり、近隣市町村までの便が良い。</li> <li>市のキャラクターのメルギュー君がかわいい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>縄文や、メルヘン建築、宮島峡など、見どころはあるはずだけど、どれがメインかわからない。特に、若者や女性が「行ってみたい」と思える場所が、乏しい感じがします。市外に居住していると、小矢部の情報はあまり届かない気がします。</li> <li>食事をしたくても、家族で気軽に入れる店がありませんために、近隣の市町村で食事をしたり、日用品や食品の買い物をして市外で行く人が多い。</li> <li>市が行っている子育ての支援が、市民の方に対してどこまで周知されているのか。また、定住支援であれば、市外の方には情報が届いているのか。</li> </ul>	<p>小矢部の魅力について（観光や子育て支援、助成制度などから、的を絞って）どのように周知すれば効果的なのかを考えていく。メルギュー君がかわいいので、キャラクターを活用してPRしていくと良いかも。たとえば、若者に周知したいのであれば、近隣の大学にポスターを張らせてもらうなど。学生時代に、大学に砺波チューリップフェアのポスターがあり、興味をもった友達が、砺波まで出かけていました。何かを生み出すのも良いのですが、今、小矢部にある魅力を、発見・再発見もらえると良いかなと思います。</p>	

氏名	私から見た小矢部市の現状と課題等について			④先進地視察の選定について
	①小矢部市の現状	②小矢部市の課題	③私が考えるまちづくりについて（提案）	
小田 友加里	<p>閉鎖的なイメージ。 若者があまりいなさそう。若者が集う場所がない（ユニホックの試合がある時のホッケー場はにぎわっており、健全な町だと感じる）。 県内、国内における知名度が低い。 交通の便はいいと言われるが、車がなければ生活ができない。 砺波市や金沢市が近く、高速道路が便利のため、レジャーや飲食などで小矢部市を利用しない。</p>	<p>閉鎖的なイメージを打破する。 若者人口を増やすか、若者が元気なイメージを醸成する。 市民がひとつにまとまって、他市町村との違いを明確化する。 小矢部市民が小矢部市でお金を落とすことが重要という意味を持てるようにする。 小矢部市内で楽しめる場所を発掘する努力をする（あれがない、これがない、ではなく、あれはある、これもある、という肯定的な見方をする）。</p>	<p>提案1 市報とケーブルテレビで、転入者や観光客を取り上げるコーナーをつくる。 （背景） 小矢部市は転入者の数が転出者の数を下回り、観光客数も県内で多いほうとは言えない。その原因のひとつに、小矢部市の魅力が広まっていないことや、閉鎖的なイメージがあることが考えられる。そこで、小矢部市の魅力を他の地域の人に知らせ、訪れたい土地であると思ってもらえるように、市民が「おもてなしの心」を持つようになればよいと思う。観光について「ホスピタリティ」という言葉がよく使われるが、観光に限らず、他の地域から引越しなどで訪れた人に感謝し、もてなす心を全市民が共有できるようになればよい。そうすれば、小矢部市を訪れた人のイメージがよくなり、口コミなどで小矢部市のよさが広まると思われる。 （提案内容） 市民がおもてなしの心を持つように、市報やケーブルテレビで「ようこそ小矢部市へ」というコーナーを作る。そこで転入者や観光客を紹介し、小矢部市の印象などを語ってもらう。そして締めくくりは必ず「小矢部市に来てくれてありがとう」という言葉にする。それを見た市民は、小矢部市を訪れた人に対し、感謝の心を強くすると思われ、おもてなしの心の醸成につながる。 また、定期的にそのような情報を発信することで、市民は小矢部市に転入者や観光客が増えているような印象を持つ。それによって市民は小矢部市に対する誇りを強く感じたり、他市町村の人に小矢部市を訪れる人が増えたということを言ったりし、市への観光客・転入者を呼び込むようになるのではないかと。 提案2 まち研や市、他の団体、会議での取り組みを継続的にブラッシュアップする まち研第2期生の方々は、小矢部の特産品商品化に成功された。しかし、任期終了後に商品化後について検討することは難しいと思われる。そこで、まち研3期生でこのテーマを引き継ぎ、特産品の売れ行きや今後の更なる売り上げについて研究するグループがあるとよい。 まち研に限らず、市や他団体などの取り組みについて、やりっぱなしにならないように、有意義な取り組みであれば誰かが引き継いで行うということが必要である。 提案3 近年できた住宅地や、居住率の高い賃貸アパートにおける、小矢部市居住理由調査 （背景） 小矢部市では定住促進事業を行っているが、メインターゲットが「高岡、金沢市などに通勤する新婚家庭または単身者」であるように見える。しかし、高岡に通勤している人はまず高岡に住むことを考えるだろうし、金沢に通勤しているのであれば県をまたがずとも住宅地は多い。小矢部市に住む人は、何か理由があって小矢部市を選択しているはずである。 （提案内容） 小矢部市に近年家を建てた夫婦、転入してきた単身者がどういった理由で小矢部市に住むことにしたのかを調査する。それによって、小矢部市に住もうとする人の傾向をつかみ、そのような人を対象に定住促進事業のPRを行う。全住戸が完売したと言われる「リバーガーデン泉」や、近年できた住宅地「メルヘンランド」で、小矢部市に家を買った理由について調査を行う。また、小矢部市に転入してきた人に、小矢部市で一人暮らしをする理由を調査する（市民課で手続きの際に、アンケート調査を配布する）。事業のターゲットを細かく設定するによって、重点的にPR活動ができ、効果に結びつきやすい。</p>	<p>転入人口が増えている所（県内であれば舟橋村） 雇用創出に成功している地域（たとえば北九州市）</p>
奥 由香理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化が進んでいる。</li> <li>・北陸自動車道・東海北陸自動車道・能越自動車道が通っていて、交通網は良いが、小矢部は通過点になることが多い。</li> <li>・PRが上手くできていない。</li> <li>・「もう一度来たい」という観光地があまりないのでは？</li> <li>・商店街が寂しい。</li> <li>・食事・買い物をするときに市外に行くことが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小矢部市といえば、これ！という何かを、市民また市外の人達に広め、定着させる。</li> <li>・小矢部市の観光地、特産品、メルヘンのまちなど良いところを上手くPRすること。</li> <li>・商店街の活性化</li> <li>・子育て環境の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小矢部の特産品を使用した商品の開発</li> <li>・小矢部の魅力のPRの仕方の工夫</li> <li>・商店街の活性化（人が集まる活気のある場に。） （例）若者を呼ぶような工夫、イベントなど</li> <li>・クロスランドの有効活用</li> <li>・観光地にもう一度訪れたいくなるような工夫。（季節ごとの工夫など。）</li> </ul>	<p>今のところ特にありません。</p>
神田 春佳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化が進んでいる</li> <li>・若者が住みたいと思えるような魅力がない。食事に行くお店や、娯楽施設などが少ない。</li> </ul>	<p>現状が課題</p>	<p>老若男女、まず小矢部市に住んでいる人が住みやすくすることで魅力ある市になり、他のところからも住みたい！と来てくれると思う。</p>	<p>金沢市</p>